

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2014. 6. 30

NO. 1

楽しかった グラントゴルフ

日も場所も違いましたが、5月に小学生と中学1年生が、寿会の方々とグラントゴルフを楽しみました。小学校の運動場で行われた小学生とのグラントゴルフ大会。寿会の方々には早くから準備に来ていただきました。毎年のように行われているグラントゴルフ大会ですが、はじめて体験する子どもたちもいました。3つのグループ



に分かれて次々とコースを回っていきました。低学年や初心者の子どもたちには、スティックの握り方や足の開き方など手を取りながらやさしく教えてくださったり、「うまい、うまい」「ええとこ飛んだやん」など励ましのお言葉もかけてくださいました。

寿会の方々は、さすが普段から熱心に練習に励んでおられるだけあって、その打ち方のフォームやねらいどころも違います。ホールインワンやピンそばにつけた時には、思わず子どもたちから「うお〜」「すごい」「さすが〜」と感動の声があがっていました。



一方、中学1年生は「ふるさと体験学習」の活動の一つとしてキャンプ場でグラントゴルフをさせていただきました。寿会の方々には10名来ていただき、2つのグループに分かれました。キャンプ場のコースは変化に富んでおもしろく、難しいコースもたくさんありましたが、寿会の方々には余裕でした。あまりやっ



たない生徒2人もアドバイスをさせていただきながらコツをつかんでいきました。大きくコースからはずれてしまった時にも、「ここから、どうやって打つたら

い？」と聞いて教えていただいたりするなど、時間とともに交流も深まってきました。小学生も中学生も、お年寄りの方々と言葉を交わし、ふれあいながらグラントゴルフのおもしろさを味わわせていただきました。寿会のみなさま、ありがとうございました。

葛川の古い歴史



小学校・中学校ではそれぞれ社会科で歴史を学んでいます。その歴史は日本全国にかかわる広い視野での歴史ですが、この葛川にも歴史は刻まれています。自分たちに身近な葛川の歴史を知る機会がありました。

小学校6年生は、葛野常喜さんに明王院を案内していただきながらお話を聞きました。今から

1100年以上も前につくられた明王院。明王院とともに歩んできた葛川の歴史ですが、その歴史の流れの中で「太鼓廻し」という祭りがはじまり、今なおそれが守り続けられています。お堂の床がボコボコになっているのが、太鼓を廻した時にできた跡だとわかりました。一年や二年ではこのような跡はできません。長年の歴史が刻んできた跡だと思います。

中学1年生は伊香立中学の人たちといっしょに、伊藤博さんのお話を聞きました。大切に保管されている葛川の古地図を見せていただきながら、葛川の歴史について話を聞かせていただきました。特に、約350年ほど前に起きた地震で大量の土砂が流出し、村ごと飲み込んでしまったことや、それによりできた自然ダムが古地図にもはっきりと描かれていることなど。歴史がこのような古地図にもしっかり残されていることに感動しながらも、あらためて大地震が起きたときの恐ろしさやそれに対する備えの必要性を感じさせていただきました。



学校林活動

今年も足尾谷の学校林での活動には森林組合の方々にお世話になっています。先日、小学1～6年生と中学1年生で、学校林の「木おこし」と「補植」に行きました。昨年11月に「補植」をして以来久しぶりの学校林。スギの木は順調良く生長しており、大きいも



のは子どもの背丈ぐらいになっています。しかし、残念ながらヒノキは鹿に葉を食べられ弱っていました。まわりを網で囲ってもらっていますが、どこからともなく鹿はおいしいヒノキを求めて入ってきているのでしょう。その対策として今回はヒノキを直接ネットで巻くことを考えていただきました。森林組合の中西さんと織田さんに

教えていただきながら、冬の間雪で傾いたスギの木をロープでひっぱりおこしたり、ヒノキ20本と大きなシイの木5本、そして山の持ち主の方からいただいた目薬の木2本を新たに植えていきました。山の斜面を歩いてこけかけているスギの木を見つけ、近くに木の株や根っこをロープで結びつけます。ロープの引っ張り具合が弱かったり、結びつける相手の木の株などが見つからなかったりしましたが、いっしょに作業してもらったりアドバイスをも



らったりしながら作業を進めていくことができました。また、補植する場所に前もって穴を掘っておいてくださり、葉の向きや土のかぶせ方など実演しながら教えていただきました。倒れても太陽の日差しを浴びることができるように、葉の表を山側に向けることや、根っこをしっかりと土の中に埋めること、土の上から落ち葉や草などをかぶせてあげることなど、苗木がしっかり生長できるようにするためのポイントも教えていただきました。黒いネットで覆われたヒノキを見ながら「今度こそ鹿さんが食べませんように」と祈る子どもたちでした。また、行くたびに大きくなっているスギの木を見ながら、その生長を喜びながらも1本の木を育てることの大変さを感じることもできました。

夏には、まわりの草を刈り取る下草刈りに行きます。鹿にやられず少しずつ大きくなってきていることを願っています。

山の木と川の水

小学校3・4年生は春から森林の学習を進めています。学校林活動では苗木を植えたり、まわりの草を刈ったりするなど森林の仕事のほんの一部を体験させて



もらっていますが、実際にはどんな仕事があるのか？まわりを見回すと山ばかりの葛川ですが、どんな木があるのか？など疑問に思ったことを解決するために、森林組合の中西克己さんのお話を聞きました。木を材料として使えるようになるには50年ぐらいかかること、良い木

を作るためには間伐などの手入れをしなければならないことなどがわかりました。そして木は空気をきれいにしたり水をたくわえたりする大事な役割を持っているので、地球のためにも元気な木を育てなければならないことを知り、毎日当たり前のように見ている木を大切にしなければいけないと感じました。

小学校5年生は水環境に関わる学習をしています。古くから木を切り出し運ぶために欠かすことのできなかった久多や葛川の川の水。その川に関わるお二人の方のお話を聞かせていただきました。林秀一さんには自作の筏の模型を使って、筏師や川の守り神であるしこぶちさん、河童伝説のお話をさせていただきました。筏師さんの仕事の大変さやたくさんの木を運び出す知恵を知ることができました。また、上河原善さんには



久多のしこぶち神社でお話を聞きました。実際に大きな鳥居やお社、拝殿を見ながら800年以上も前につくられたしこぶち神社や久多の歴史について聞かせていただきました。遠い昔につくられた神社や伝統が守り続けられていることがわかりました。



さつまいもたくさんできるといいなあ



小学校1・2年生と保育園児がさつまいもの苗植えを寿会の方々に教えていただきました。去年はハクビシンにやられて収穫できず、今年はリベンジです。運動場の片隅の学校園の一部がさつまいも畑になりました。事前に寿会の方々が土にまじったたくさんのお石を取り除きながら立派なうねをつくってくださいました。

5月半ば、いよいよ苗植えの日。苗の置き方や土のかぶせ方などいねいにやさしく教えていただき、あっという間にたくさんのお苗がうねに植えられました。天気に合わせて植えた直後の水のやり方も教えていただきました。猿やハクビシンにやられないようにまわりにはった網の工夫もいろいろ案を出していただきました。子どもたちは朝の水やりを日課にしながら、少しずつ葉っぱが増えて大きくなってきているさつまいもの苗に、「もっと大きくなりますように」「動物に食べられませんように」と願っています。寿会の皆様方、ありがとうございました。



その技に学ぶ

小学校5・6年生は家庭科の学習で「そばうち体験」をしました。教えてくださったのは奥出一順さんご夫妻。本格的な道具を持ってきていただき、その技を伝授してもらいました。「一鉢、二のし、三包丁」にしたがって、まずは奥出さんが見本を見せてくださいました。大きな鉢の中でこねていく粉はみ



るみるまに丸くなっていきます。まるで魔法の手のように。うすくうすく均等にのばされた生地を専用の包丁で切っていきます。細い麺が次々にできてきて「あっ、これが蕎麦やあ」と思いました。子ども

たちは一人一鉢貸していただき、自分で自分の蕎麦作りに挑戦です。奥出さんの見本やワンポイントアドバイスを思い出しながら手を動かします。去年の経験者は、さすがに手が思い出したらしく



とてもいい手つきです。はじめて挑戦する子どもたちは、最初は粉と奮闘していましたが、いつの間にか道具を持つ手や動かし方などもまよなくなってきました。一人ひとりの作業を見て回りながら、「もうちょっと、こうしてみ」「なかなか上手やで」と手をそえ、声をかけてくださる奥出さん。全員、蕎麦の麺を作り上げることができました。奥出さんのすごい職人技に感動しながら、自分で作り上げたお蕎麦を食べることを楽しみに頬がほころぶ子どもたちでした。できあがったお蕎麦はお家に持って帰り、お家の方々と味わいました。



新年度がスタートしたのがつい昨日のことのようですが、1学期も終わりに近づいてきました。1学期も子どもたちは地域の方々にたくさんお世話になり多くのことを学ばせていただいています。今年度もこの「コーディネーターだより」を発行し、学校の子もたちと地域の方々との関わりなどをお知らせさせていただきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。